

平成26年6月26日

№. 14-126

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

四国八十八カ所巡りに関する意識調査結果

～四国霊場開創1200年を四国観光への関心を高める契機に～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 山崎 正人）では、このたび下記のとおり、『四国霊場開創1200年』の認知度や四国八十八カ所巡りへの関心度等についてのアンケート調査結果を取りまとめましたので、お知らせいたします。なお、詳細は、2014年7月1日発行の「調査月報IRC・2014年7月号」に掲載いたします。

記

【調査概要】

時期 2014年5月1日から5月19日

方法 IRCのホームページ上にアンケート画面を設置、懸賞サイト登録により回答者を誘導

回収数 759 サンプル

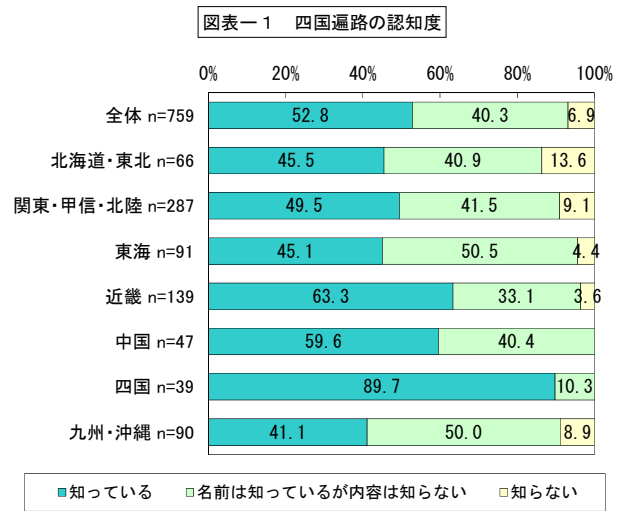
【調査結果要旨】

1. 「四国八十八カ所参り」について「知っている」または「名前は知っているが内容は知らない」という人は全体の93.1%となり、詳しい内容はともかく、その名前はほとんどの人に認知されている。
2. 今年が『四国霊場開創1200年』に当たるということを知っている人は、19.4%にとどまった。
3. 開創1200年を機に八十八カ所参りをしてみたいか尋ねたところ、「今年すでに行った」が0.8%、「今年中に行く予定がある」が3.7%といずれもわずかだが、「予定はないが今年中に行ってみたい」は20.7%となった。
4. 八十八カ所参りをする（または、してみたい）人の主な目的として最も多かった回答は、「道中の自然景観や観光名所を楽しむ」（46.5%）であった。
5. 巡拝する際に利用したい交通手段としては、「自家用車」と「旅行会社のバスツアー」がそれぞれ3割弱を占めたが、「全行程歩いて」という回答も2割弱あった。
6. 開創1200年をきっかけに四国の観光への関心が高まり、足を運ぶ人がこの先さらに増えることに期待がかかる。

以上

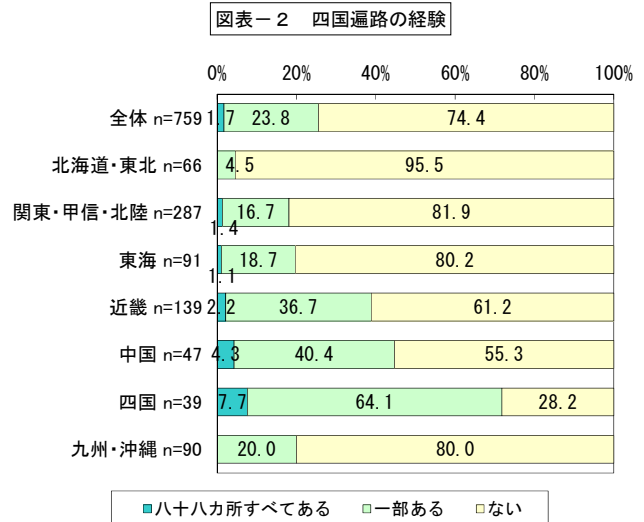
1. 四国八十八カ所参りの認知度

「四国八十八カ所参り（四国遍路）」を知っているか尋ねたところ、「知っている（52.8%）」「名前は知っているが内容は知らない（40.3%）」を合わせると93.1%となり、詳しい内容はともかく、その名前はほとんどの人に認知されている。（図表－1）



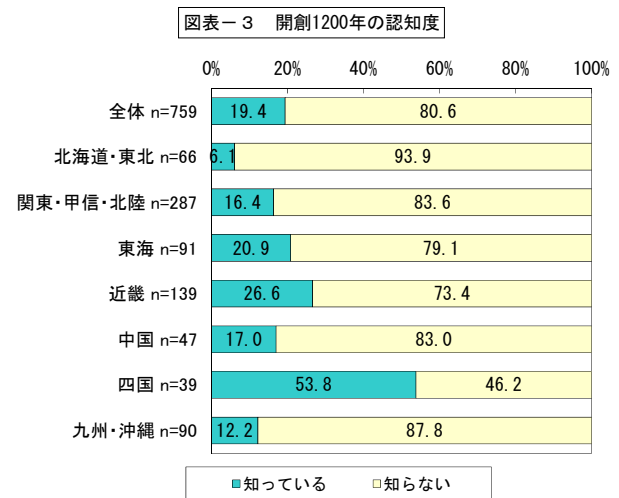
2. 四国八十八カ所参りをした経験

実際に四国八十八カ所参りをしたことがあるかという問いに対しては、「八十八カ所すべて回ったことがある」が1.7%、「一部ある」が23.8%であった。近畿地方、中国地方の居住者では4割前後が、部分的であれ八十八カ所参りをした経験がある。（図表－2）



3. 「四国霊場開創1200年」の認知度

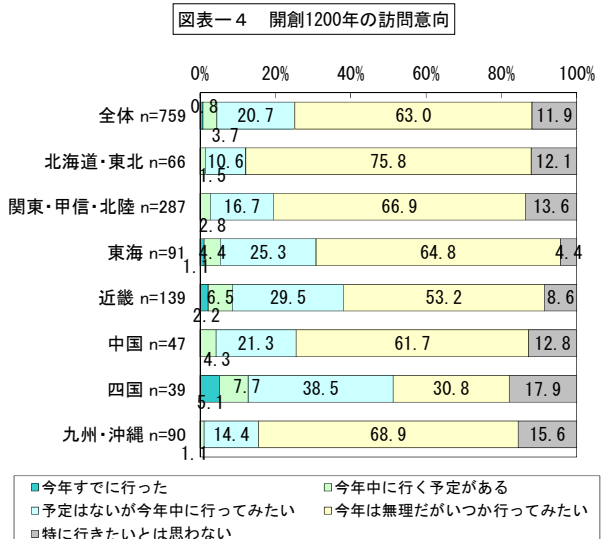
今年が『四国霊場開創1200年』に当たり、御本尊の特別拝観や記念法要などが行われていることを「知っている」人は、19.4%にとどまった。四国在住者に限ると半数強にのぼるが、全国的にはまだまだ認知度は低い。（図表－3）



4. 四国霊場開創1200年に当たっての訪問意向

開創1200年を機に八十八カ所参り（1カ所以上）をしてみたいか尋ねたところ、「今年すでにいった」が0.8%、「今年中に行く予定がある」が3.7%と、いずれもわずかながら、「予定はないが今年中に行ってみたい」は20.7%となった。3つの選択肢を合わせると、四国のほか、東海と近畿で回答率が3割を超えた。（図表－4）

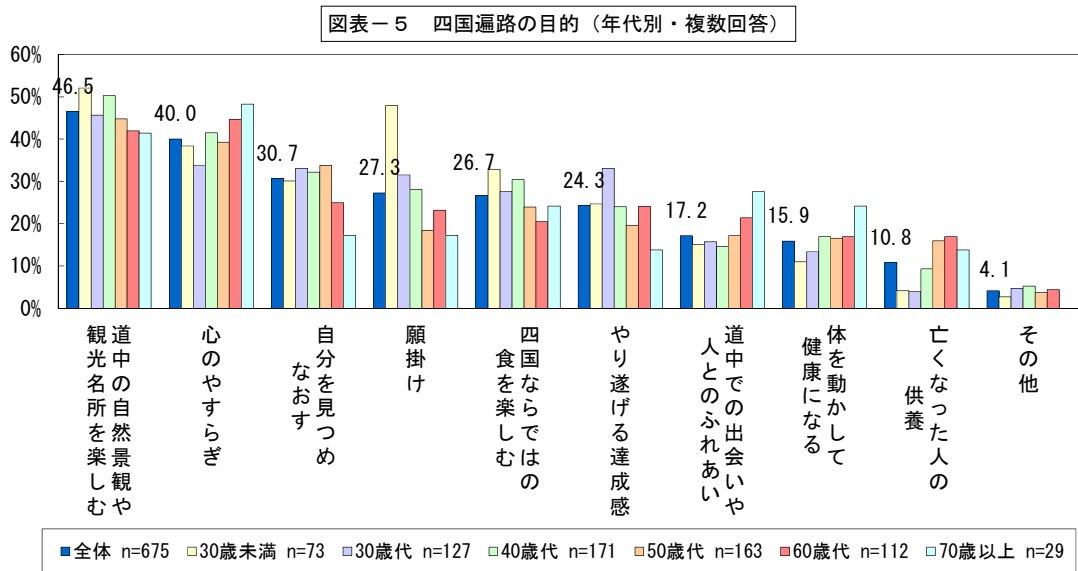
また、「今年は無理だがいつか行ってみたい」という回答は63.0%にのぼり、「八十八カ所参り」に興味を持つ人は多い。



5. 八十八カ所参りの主な目的

八十八カ所参りをしたことがある人と行ってみたいと回答した人に対して、「八十八カ所参りの主な目的は何か」尋ねたところ、最も多かった回答は「道中の自然景観や観光名所を楽しむ」（46.5%）であった。（図表－5）

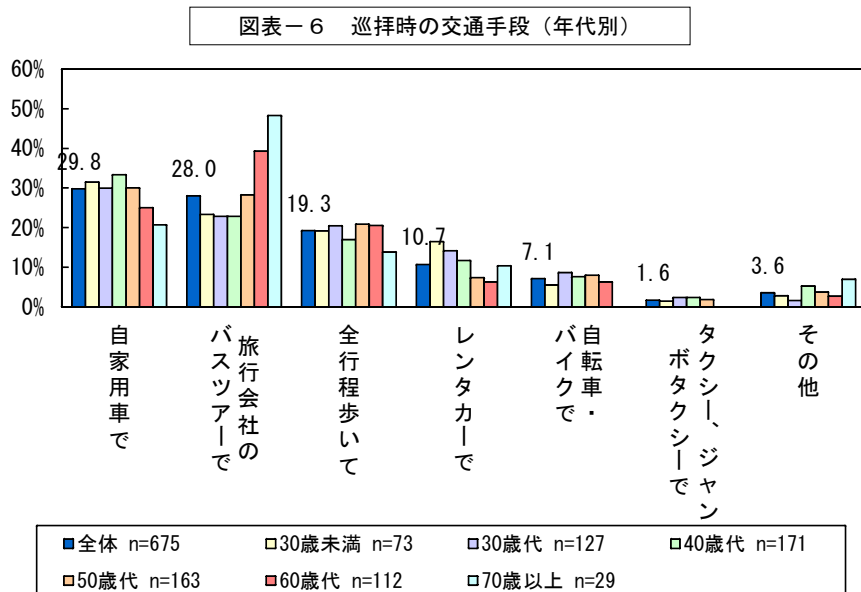
一方では、「心のやすらぎ」を求める人も少なくない。年齢層が上がるほどその傾向が強い。



6. 巡拝時の交通手段

巡拝する際に利用したい交通手段としては、自家用車と旅行会社のバスツアーがそれぞれ3割弱を占めた。60歳以上ではバスツアーの支持が多かった。（図表－6）

70歳以上を除く各年代で、「全行程歩いて」という回答が2割前後あった。関東・甲信・北陸の回答者では「全行程歩いて」という回答が26.6%で、他の交通手段よりも多かった。



まとめ

四国八十八カ所参りに対する全国的な認知度は非常に高いものの、「四国霊場開創 1200 年」は、まだ十分には知られていない。「いつか四国八十八カ所参りをしてみたい」という人は多いが、その目的としては「道中の自然景観や観光名所を楽しむ」ことと考える人が多く、宗教的な意味合いは薄れている面もある。ウォーキングやロング・トレイルの人気が高まっていることもあってか、歩き遍路にチャレンジしてみたいと考える人も少なくない。

愛媛県内の観光関連事業所の中には、すでに「四国霊場開創 1200 年」の影響で巡拝客の増加がみられるというところもある。県内では、巡拝のルートの関係から夏から秋にかけてさらに巡拝客の増加が見込まれている。開創 1200 年のさまざまな行事が、四国の観光への関心を高め、足を運ぶきっかけになることに期待がかかる。

(上甲 いづみ)